

「小学生の部」

私のおじいちゃん、おばあちゃん

中村小学校 五年 永井 きいな

わたしは、おじいちゃんとおばあちゃんと住んでいます。

おじいちゃんは、エアコンやテレビなど電化せい品を直す仕事をしています。そのため、けがをすることが多いです。けがをしたときに、ばんそうこうを時々はるけれど、けがはあまりしてほしくありません。

この間、家の洗たく機がこわれたときに直してくれました。ドライバーや工具を使って、おふる場で修理をしてくれました。お母さんたちは、買おうかとなやんでいただけ、おじいちゃんは、一生けん命がんばって直してくれました。このように、何かがこわれてしまつてなやんでいる

と直してくれます。なんでも直せてすごいと思います。

休みの日には、家族みんなをいろいろなところに連れていってくれます。行ったことがないところでも、スイスイと行けてすごいと思います。おじいちゃんとおばあちゃんはお出かけが大好きです。二人が出かけると、おみやげを買ってきたり、「また今度いっしょに行こうね。」とさそってくれたりします。コロナでお出かけができなくてさびしそうです。だから、旅行番組をよく見えています。二人を見ていると、早くお出かけに行きたくなります。おじいちゃんよりも、おばあちゃんの方がお出かけが好きです。

おばあちゃんは、介ごし設で働いています。わたしはかざりつけを手伝っています。よくおばあちゃんと折り紙を折っています。おばあちゃんは手先が器用で、折り紙をよく教えてくれます。

おばあちゃんは、庭で花や野菜を育てています。私も手伝います。水をあげたり、肥料をまいたりしています。野

菜も元気に育てています。夏の野菜を育てています。夏になつたらできる梅ソーダを今作っているそうです。毎日ピンに入った梅をふっています。梅をつくるときに、私も手伝いました。梅の「へそ」という部分をとり、おいしくなるそうです。

他にも、今育てている野菜は、キュウリ、ゴーヤ、ピーマン、ナス、ミニトマトなどです。帰ってきたら、すぐに水やりをしています。水をやらなかった日は、一日もありません。おばあちゃんが、野菜を育てるのが好きなことが伝わってきます。

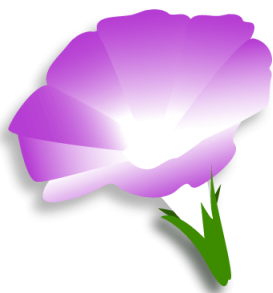
花もいっぱい育てています。朝顔、パンジー、色が変わってハートになる花などを育てています。いつも庭がにぎやかで楽しいです。登校するときや下校するときがうれしいです。わたしは、おばあちゃんのおかげで花や野菜が大好きです。

昼や夜には、野菜を使った料理を食べます。家族みんな

が「おいしい。」と言ったら、喜んでくれます。家で作った野菜はおいしいです。

おじいちゃん、おばあちゃんは、わたしががんばるととてもよろこんでくれます。一輪車の練習では、公園に出て、応えんしてくれました。乗れるようになったときは、すぐくよろこんでくれました。

おこられることもあるけれど、大好きなおじいちゃんとおばあちゃんです。お仕事でいそがしいけれど、けがや病気をしないで、元気でいてほしいです。コロナで、ずっと旅行やとまりには行っていません。早くいっしょに旅行に行けるようになるといいです。いっしょに出かけて、思い出をたくさん作りたいです。



最高のおじいちゃん

中村小学校 六年 曾我 礼夏

私のおじいちゃんは農家で、野菜などをたくさん育てています。おじいちゃんは、季節に合った野菜などを毎年くれます。そんなおじいちゃんは、だれにでもやさしくて、わたしはすごいと思っています。

おじいちゃんは、ひいおじいちゃんと一緒に住んでいて、二人だけで農家をやっています。二人だけで育てているのに、いろいろな種類の野菜をたくさん作っています。そして、毎年たくさん野菜をくれて、とてもおいしいので、もらうときはとてもうれしいです。その中でも一番印象に残っているのは、スイカです。おじいちゃんは、毎年たくさんスイカを育てています。私の家族は、スイカが大好きなので、すぐに食べ終わってしまいます。スイカをもらうときに、おじいちゃんはいつも

「たくさん食べて、もつと大きくなりな。」

と言ってくれます。私は、大切に育ててくれたスイカをおじいちゃんの言っていた言葉を思い出しながら食べています。

二人だけで農業をやっているということで、私もときどき手伝いに行っています。畑には、いろいろな種類の野菜などがあって、とてもわくわくします。けれども、たくさん虫もいます。私は虫がきらいなので、手伝うときは虫と闘いながらやっています、それもまた、ミッションみたいで楽しいです。私は数回しか手伝ったことがないけれど、おじいちゃんたちは毎日畑で仕事をしています。でも、手伝いに行くときとても喜んでくれて、私ももつと手伝いたいという気持ちになってきます。手伝うときは、力仕事が多いので大変ですが、そのぶんしんせんなとれたての野菜がもらえるので、とてもうれしいです。

農家だけでなく、とまりにいったときは、料理を作って

くれます。その中でも一番好きなのはカレーです。いろいろな野菜が入っていて、いろいろな味や食感を楽しむことができます。そのほかにも、肉じゃがや野菜いためなど、野菜を使った料理をたくさん作ってくれます。私はあまり野菜が好きではないけれど、おじいちゃんの料理は大好きです。

おじいちゃんは、農家でたくさんの野菜を育て、料理も作ることができて、私にとっては最高のおじいちゃんであり、あこがれのおじいちゃんでもあります。これから、そんなおじいちゃんに対して、農作業を手伝ったり、料理を作ったりして、おじいちゃんにとって「最高の孫」になりたいです。



すごいおじいちゃん

井ノ口小学校 六年 小山 拓人

ぼくのおじいちゃんは、シルバーの園芸の仕事をしています。とても暑い中でも、依頼された家の木を切るなどしています。

他にも、おじいちゃんは、庭に花を植えたり、畑で野菜を育てたりしています。野菜はとってもおいしいし、お花もとってもきれいです。

そんなおじいちゃんを、とてもすごいと思います。

おじいちゃんの家に行くときは、とても楽しみです。いっしょにテレビを観たり、畑で野菜を収穫したり、散歩したりするからです。

特に、散歩が一番楽しみです。それは、いろいろなことを話しながら歩くからです。

「五十m走は何秒だったよ。」

とか、

「昨日のごはんは〇〇だったよ。」

とか、そんな些細なことでも、とっても楽しいです。

ぼくは、おじいちゃんのシルバーの仕事は、暑い中大変だなと思っていますが、おじいちゃんは、お金のためだけではなく、好きでやっていて、それが生きがいなんだそうです。

これからも、もっとおじいちゃんと話したいです。だから、元気に仕事を頑張って長生きしてほしいと思います。

お年寄りの笑顔

井ノ口小学校 六年 鈴木 碧海

私は、中井町にある老人ホームでフラダンスをひろうしました。今まで神奈川県の色々な場所でフラダンスをおどつ

てきたけれど、初めて自分が住んでいる町で踊りました。

踊っている時は、おじいちゃん、おばあちゃんが手拍子をしてくれました。私が踊った後、先生が、

「みなさんも一緒に踊りましょう。」
と言って、全員で踊りました。簡単な曲だったので、全員で踊れてうれしかったです。

終わった後に、

「よかったよ。」

「すごく楽しかったよ。」

「ありがとう。」

など言ってくれて、すごくうれしかったです。

私も、おじいちゃん、おばあちゃんも笑顔になりました。おじいちゃん、おばあちゃんと話すことは今までなかったけれど、老人ホームの人と少し話して、もっと話してみたいなあと思いました。

このように、お年寄りと小学生などが交流できる機会が

あると、お年寄りはおもしろいのだと感じました。

また、日常でも、「おはようございます。」のようなあいさつをすると、自分もお年寄りも、いい気持ちになると思っています。これなら登下校中などでもできて、お互いが明るい気持ちになれます。

フラダンスの交流を通して、こんなに色々な人とつながれるのだとおどろきました。そして、人を笑顔にすると、自分も笑顔になれることが分かりました。これからも、お年寄りの笑顔が増えるように、私ができることを続けていきたいと思っています。



〔中学生の部〕

祖父が教えてくれた事

中井中学校 一年 長谷川 杷奈

今年二月。私の祖父は入院し、手術を受けました。原因は「ヘルニア」です。祖父は自営業で車を修理する仕事をしています。そのため、長時間同じ姿勢だったり、脚や腕などに沢山の力を使ったりすることを毎日のようにこなしてきました。このような生活が何年も続き、腰などを痛めていました。手術を受ける前の二月中旬あたりには、脚に力が入りにくそうだったり、とても動きづらそうだったりする様子がよく見られました。そのような祖父を皆とても心配していました。しかし、とても優しい祖父は、「大丈夫だよ。すぐ治るよ。」と言っていました。私はその言葉を聞いた時に、胸が締め付けられていきます。それは、何にも代えられない、世界で一人だけの大切な祖父だからです。

祖父は、そのような思い詰めた顔の私を海に連れて行ってくれました。

「ガタガタッ」と揺れる道路の先には、いつもの海が広がっています。海のすぐ側まで行くと、祖父は、話し始めました。

「じいちゃんね、嫌な事があるとよくこの海に来るんだよ。波に向かって吐き出すんだよね。そうしたら、波が嫌な思いを連れ去ってくれるから。」

その言葉を聞いたら、小さな小さな閉ざされた籠から解放されたような気分になりました。そして、目の前に映し出されている青く光る海は、まるで祖父の心の壮大さを表しているようでした。

家に帰ると、私はすぐさまノートパソコンを開きました。その時の私は、「祖父に何かしたい。」という一心だったと思います。でも、そこに、私が求めていた「答え」はのっけていませんでした。何故だろう。私は悩み続けました。イ

ンターネットには、「オススメ商品」というワードがよくのっていました。でも、私の考えとはあまり合いませんでした。

そこでふと、幼稚園の頃の記憶を思い出したのです。それは、高齢者施設に行った時の事です。具体的に何をしたのはよくは覚えていませんでした。でも、一つだけすごく印象に残っている事がありました。それは、「笑顔」です。当時の私は、高齢者の方たちにとっても壁を感じていたと思います。でも、部屋に入ると、おばあちゃんたちの温かいぬくもりや気持ち、とても伝わってきました。また、おばあちゃんたちだけでなく、周りの人たちもそうでした。周りの人というのは、ヘルパーさんや、私の親、親だけでなく、その場にいる全員です。また、自分の家じゃないのに、おばあちゃんたちが喜んでるのが、その時の私はとても不思議でした。しかし、高齢者の方々が安心して過ごせるような取り組み、福祉について学んだ今の私には、

「そのような当たり前の日々を送るためには、沢山の人たちの協力がある。」という事がとても分かります。

そして、その大切さを思い出した私は、「具体的に何をした」のかではなくて、「どのようにした」か。「一人」ではなくて、「皆で協力して」という事の大きな違いに気づきました。

三月一日。手術当日。コロナ感染症予防のため、病室には入れませんでした。でも、「私たちの思いは伝わっている。」と信じて、連絡を待ちました。

何時間かたつと、「無事に終わった。」という連絡が来ました。声には出しませんが、私の心の中では、大きなガッツポーズがあがっていました。そして何日かたち、退院を迎えた祖父はとても「笑顔」でした。

私が思いを届けた手段は二つです。一つは、「百羽鶴」です。物作りが苦手なため、千羽とまではいきませんが、家族で「協力」しあい、一羽一羽に思いを込め

て作る事ができました。二つ目は「手紙」。最初は正直、恥ずかしくてやめようかと考えていましたが、病室に行かないなら、「これしかない。」と考えて書きました。退院した時に祖父が「ありがとう。」と言ってくれました。それはたった五文字の言葉ですが、なかなか言えない難しい言葉でもあると思います。そして私は、こんなにも自分の思いが伝わるってすごい事なんだと実感しました。そしてその百羽鶴と手紙は、祖父の部屋に飾ってあるようです。

今の日本には、少子高齢化問題があり、もちろん世界中にも貧富の格差や環境問題、高齢者や障害者への暴力もたくさんあります。それらも「一人で」という考えではなかなか進行を止めることができないけれど、私のように「皆で協力して」という考えに変えるだけで、感じるものがすごく変化してくると思います。また、見える世界も変わってくると思います。そして私は、この経験を生かして、自分の殻を破って「自分にはなにかできるのか」という考え

をと共に生きていきたいです。また、ヘルパーさんたちのように、人にぬくもりや笑顔、元気を与える人になりたいです。

優 秀 賞

「小学生の部」

わたしのひいおばあちゃん

中村小学校 一年 平川 瑛菜

わたしのひいおばあちゃんは、わたしのいえのちかくにおばあちゃんとすんでいます。ひいおばあちゃんとはいつもいっしょにごはんをたべられないけれど、たまにそとでごはんをたべにいくときに、わたしもいっしょにいつてごはんをたべます。

ごはんに行くまえに、ときどきわたしのいえでひいおばあちゃんといっしょにまつこともあります。ひいおばあちゃんはおりがみがとつてもじょうずで、おりがみやおはながみでいろいろなものをつくっています。こまかいつるをつみあげてつくったり、ふわふわのおはなをつくったりして、とてもすごいです。わたしもひいおばあちゃんみたいにじょうずにおりがみができるといいのになあとおもいます。いろいろななさくひんをつくっていて、わたしにはなのかみかざりをつくってくれたこともあって、とてもうれしかったです。

ひいおばあちゃんやおばあちゃんといっしょにごはんをたべると、みんなでわいわいはなせてとてもたのしくて、うれしいきもちになります。

こんなふうにいっまでもみんなでのしくすごせるように、ひいおばあちゃんにはげんきでながいきしてほしいです。もしも、ひいおばあちゃんのげんきがないときは、わ

たしがおりがみをおったりおてがみをかいたりして、げんきにしてあげたいとおもいます。ひいおばあちゃん、いつもまでもげんきでいてね。

いつもありがとう

中村小学校 二年 小林 悠凜

ぼくのおばあちゃんは、ぼくによくおかしをかってくれたり、もってきてくれたりします。

おじいちゃんは、ぼくにとてもやさしくしてくれます。

おじいちゃんとおばあちゃんは、カーネーションのお花をつくっていて、お店にとどけるしごとをしています。ぼくは、よく水やりをして、カーネーションのお花をつくるのをてつだっています。カーネーションのじきは、十月ぐらいから五月ぐらいまでです。



ほかに、おじいちゃんとおばあちゃんはやさいをそだてています。きゅうり、ミニトマト、なす、ピーマン、キャベツ、レタス、いちごをそだてています。ぼくが一ばんすきなのは、いちごです。あまいのがすきです。

おじいちゃんとおばあちゃんがつくったやさいはとてもおいしいです。

ぼくは、おじいちゃんとおばあちゃんがだいすきです。

いつまでもいつしよにいてほしです。

おじいちゃん、おばあちゃん、いつもありがとう。これからも長生きしてください。

畑の手伝い

中村小学校 三年 森上 壮馬

ぼくのおじいちゃんは、畑でいろいろな野菜を育てています。

ぼくが六さいのとき、おじいちゃんが、「玉ねぎをとるから手伝ってくれ。」

と言ったので、しゅうかくを手伝いました。とれた玉ねぎは、おみそしるにして食べました。おいしかったです。

おじいちゃんの畑では、じゃがいもとれます。ぼくがシャベルでほって、おじいちゃんがそれを集めてしゅうかくしました。とれたじゃがいもは、グラタンにしてたべました。グラタンはとてもおいしかったです。

おばあちゃんは、いつもおじいちゃんの手伝いをしています。おばあちゃんは、おじいちゃんの畑にひりょうをまいています。

三年生になってから、家族でみかんもぎを手伝いに行き

ました。みかんはたくさんあって、おばあちゃんは木に登って、ひとつずつ手でとっていました。ぼくがみかんを引っぱってとっていたら、おばあちゃんが

「回してとった方がいいよ。」

と教えてくれました。ぼくは言われたとおりにやってみました。すると、本当にきれいにとれました。

とちゅうで休けいをしたとき、とれたてのみかんを食べさせてもらいました。とてもあまくておいしかったです。きゅうけいをしながら、ずっとみかんをとり続けていたら、いつの間にかいっぱいとれていました。そのなかにも大きなみかんもあってうれしかったです。

みかんはまだまだいっぱいできるので、これからもしゅうかくの手伝いをがんばりたいです。

おじいちゃんとおばあちゃんのおかげで、おいしい野菜やみかんが食べられてうれしいです。今度会った時に、あ

りがとうを伝えたいです。

私のおじいちゃん、おばあちゃん

中村小学校 四年 山本 美空

私はおじいちゃん、おばあちゃんのことを「じいじ」「ばあば」とよんでいます。じいじは私の家の近くに住んでいます。ばあばはふじさわ市というところに住んでいて、時々会いに行きます。二人は今でも元気にしています。

じいじは畑仕事をやっています。畑はコンビニの後ろにあります。じいじは仕事仲間とやっています。休けい時間は小屋の中で仲間とお話をしながら休けいしています。じいじは畑の中にねこを飼っています。ねこはこわいねこもいるし、おとなしいねこもいます。私が畑に行ったとき、ねこを見たら、じいじが

「このねこ、かわいいだろう。あそこにいるねこがボスねこだ。」

と言いました。ボスねこはちよつとぼつちやりしていて、目つきがするどいねこです。私は小さいころ、ボスねこがこわくて近づけませんでしたが、今は近づけます。

じいじとの思い出はじいじと北海道に行ったことです。その時は雪まつりのイベントがあり、雪で作られた雪ぞうがありました。じいじといっしょに雪をけずってキャラクターみたいなものを作りました。その時はすごく楽しかったです。

ばあばは、ふじさわ市で一人ぐらしをしています。ばあばの家に行って、いっしょにごはんを食べます。私はばあばといっしょにごはんを食べるのがすごく楽しみです。

ばあばは、畑仕事をしています。その畑には、花などの植物もあります。毎年春になると、きれいな花がいっぱいさいて、お花畑みたいになります。また、ばあばは時々、

野菜をくれます。ナスとかがとどいた時、みそしるにして食べたらいしかったです。

私は小さい時、体が弱くて、家で休んでいました。ある時、気持ち悪くなって、家で休んでいる時に、ばあばがおかゆとフルーツを持ってきてくれて、私のめんどうをみてくれました。フルーツは一口サイズのみかんやパイナップル、いちごなどたくさんありました。「だいじょうぶか。いっぱい食べて元気になれよ。」

と言ってくれました。私はフルーツを食べて元気になりました。

わたしはじいじとばあばが大好きです。私は今度いっしょに畑仕事をやってみたいです。これからもみんなで元気に生きていきたいです。



私たちがお年寄りに出来ること

井ノ口小学校 六年 渡辺 愛華

私は、困っている人たちを助けるために、自分たちが出来ることを探していきたくと思っています。

例えば、足こしが弱っている人がバスにいたら、席をゆずったり、荷物を持ったりすることで、お年寄りが楽になれるようにしたいと思います。そうすれば、町も笑顔になっていくと思います。それに、みんなで助け合うことで、仲良くなれるなど、よい事が続きます。

また、お年寄りに

「おはようございます。」
と、元気に挨拶することで、自分もよい気持ちになって、お年寄りも笑顔になります。

このように、みんなで協力し、感謝されると、自分もお年寄りもみんなよい気持ちになっていくと私は考えます。

私のひいおばあちゃんは、九十才になっても元気で、体
そうや草むしりなどをしています。そんなひいおばあちゃ
んはすごいなと思います。

もし、ひいおばあちゃんが元気がない時は、私が出来る
ことをして、たすけてあげたいです。

みなさんも、自分たち出来ることを探して、笑顔で
「ありがとう」がいっぱい町の町にしていきませんか。

笑顔で返してくれたおじいさん

井ノ口小学校 六年 西村 朋華

私は、一人で下校している時に、おじいさんとすれちがっ
て、私が

「こんにちは。」

と言ったら、おじいさんは

「こんにちは、おかえり。」
と笑顔で返してくれました。

私は、それまで大きな声であいさつをするのが少しはず
かしくて、小さな声になってしまいう時がありました。けれ
ど、おじいさんが笑顔でうれしそうに返してくれたので、
あいさつをするとうれしい人もいるんだ、あの時のおじい
さんみたいに返してくれる人もいるんだ、と思い、あいさ
つを心がけようようと思えました。

あいさつをした時は、返してくれた人もいたけれど、返
してくれない人もいました。あいさつをしてくれないと、
こんなにさみしいのだと、その時に分かりました。

私がうれしかったのは、おじいさん、おばあさんが笑顔
であいさつを返してくれる時です。私は、これからもあい
さつを続けて、低学年の子たちにもあいさつをするように
なってほしいです。そして、みんなにあいさつをすること
の素晴らしさを感じてほしいです。

あの時あいさつを返してくれたおじいさん、おばあさん
みたいな人が増えて、町が笑顔であふれるといいと思いま
す。

中井町のお年寄りと高齢化社会

井ノ口小学校 六年 門田 明樹歩

私は、今の中井町のお年寄りと高齢化社会について考え
ます。

みなさんは、歩いている時、よくお年寄りを見かけませ
んか。そこから、高齢化社会を身近に感じますよね。

私たち六年生は最近、高齢化社会について勉強をして、
みんなでこのままだとどうなっていくのかを考えました。

少子化もあるため、働く人が少なくなってしまうたり、
税金を納める人が少なくなり、税金が足りなくなってしまう

たりするなど、さまざまな問題があることに気付きました。
そして、そのような問題が身近になってきているというこ
とが分かりました。

私たちが大人になった時には、さらに身近になっている
と思います。ですから、今のうちから対策を考えていかな
くてはいけないと思います。

例えば、一人暮らしのお年寄りがしつかり食事ができる
よう、食事を届ける支援は、お年寄りの見守りにもなりま
す。

また、みんなが年齢にこだわらずに働ける社会になれば、
自分らしく生きていくことができます。

みなさんも、お年寄りが安心して暮らせる社会にするた
めに、今から自分ができることを取り組んでいきましょう。



お年寄りが住みやすい町にするには

井ノ口小学校 六年 矢吹 一花

私は、コンビニエンスストアに行った時に、お年寄りがお会計になんで何分もかかるのだろう、と思いながら順番を待っていたことがあります。

学校で、お年寄りは一円玉や百円玉がすべて持てないことを知り、なんで何分もかかるのかと思っていた自分が少しわるいな、と思いました。

もし、自分がお年寄りだったら、硬貨をとれないと思うし、今何円出したかも分からなくなりそうです。

また、生活の利便さでいうと、中井町では車が欠かせません。私は遠藤原に住んでいます。買い物に行くには車が必要です。高齢になって運転をやめたお年寄りには、コミュニティバスが交通手段です。

私は、コミュニティバスが買い物や病院に行くお年寄り

のために、さらに使いやすくなればいいと思います。

これからは、コンビニエンスストアで見かけたお年寄りのように、困っている人がいたら、イライラするのではなく、やさしく見守ったり、助けたりしてあげたいです。そして、お年寄りが住みやすい、みんなが笑顔の中井町にしていきたいと思います。



「中学生の部」

僕にできる」と

中井中学校 一年 家人 夏樹

先日、母方の祖父がいつの間にか出かけていた。どこに行っただのか分からない。認知症だ。

祖父は、新型コロナウイルスが流行し始めてから、認知症が悪化してしまっていた。

そしてその日、祖母が外出して、家に帰ってきたとき、祖父はいなかったという。

母は、探しに出かけた。すぐに警察にも連絡した。母がいない間は、父方の祖父母が僕や弟のそばにいてくれた。

でも、僕はずっと不安でたまらなかった。「早く見つかって欲しいな…」と思いながら眠った。長い長い夜だった。

翌日、帰ってきていた母が、
「じいじ見つかったよ」

そう言った。夜一一時頃、祖父宅から四キロ程の所にいるのを偶然見つけたらしい。夕方頃、見つからなくなってから六時間くらい歩き続けていたようだ。

僕はほっとした。すごく安心した。そして、祖父のために自分ができることを考えてみた。

僕が気になったことは、祖父と会ったときに、どのような接し方をするのが良いかということだ。小学校で認知症についての授業を受けたことがある。でも、改めてインターネットで認知症の人の接し方について調べた。すると、接するときは、「驚かさない」「急がせない」「言動を否定しない」「責めない」「自尊心を傷つけない」という5つのことに気をつけることが大切だと分かった。つまり、相手の立場に立って考え、思いやりを持って接することが大切なのだ。これなら僕にもできそうだと思った。

最近ではコロナウイルスの影響で、全然会いに行けていない。でも、次に会う機会があったら、この5つのことを意

識して、ゆっくり話を聞いてあげたいと思う。そして、今までのことを祖父にたくさん話してあげたいと思う。

大切な祖母

中井中学校 一年 星野 翔音

私には誰にも代えられない、祖母がいます。母に怒られた時や、嫌なことがあった時には心の寄り所になってくれる優しい祖母です。

去年、私にはかわいい弟ができました。もちろん祖母もうれしがっていました。祖母は仕事をしています。弟が産まれる前はよく祖母に甘えていました。○○が欲しいと何度もねだったり、○○に行きたいと言ったこともありました。ときには、怒ることもあったけど祖母は笑って話して聞いてくれました。習い事を続けたいと言うと祖母は祖父

とお金を出してくれました。時には遠い所で私が頑張っているのを見ていてくれました。今まで私は祖母をいろんな、わがままに付き合わせてきました。でも、もうこんな事はできません。それは、弟が産まれたからです。私は赤ちゃんの身の回りの世話の仕方を知りません。なので、母がいなときは祖母が面どうを見ます。祖母は仕事に弟の世話。そして、私のわがままにも付き合ってくれています。

このままでは、祖母が疲れて倒れてしまいます。なので私はもう祖母には甘えないよう頑張ろうと思いました。たとえば、弟の世話をする事です。祖母は仕事をしているので、弟の世話と両方するのは難しいと思います。なので、最近、弟と一緒に遊んだり、一緒に寝たりして祖母が気を使わせないように頑張っています。時々、朝ごはんを自分で作ったりしています。母も家にいるのですが、母も弟の世話でつかれている思うので朝は時々パンを焼いたり目玉焼きを作ったりします。そのあとは弟と一緒にテレビを

見たり、おもちゃで一緒に遊んだりしています。それで、弟が笑ったり、一緒に遊んでくれたりすると、とてもうれしいし、私も一緒に遊んでいて楽しいです。祖母や母のために頑張っていることでも楽しいこともあるからこれからも、祖母や母のために頑張れることは、頑張ろうと思いました。

ひいおばあちゃんの優しさ

中井中学校 一年 佐藤 優禾

私には、もう九三歳になるひいおばあちゃんがあります。私が小学校低学年のころ、会いに行くたびに、「よくきたね、ひさしぶりだねえ。」とハグをしてくれる優しいおばあちゃんです。

ひいおばあちゃんは私が小さいころ、コアラのぬいぐる

みをくれました。大好きなひいおばあちゃんからもらったものだったので、毎晩、ぬいぐるみと一緒に寝ていました。でも、まだ小さかった私は、「なんで、ひいおばあちゃんって、こんなに優しくしてくれるのかな。」と、ひいおばあちゃんの優しさに疑問を抱きはじめました。それから何年か経ったころ、その答えが分かったのです。

それはある日、母からひいおばあちゃんの過去について話されたときでした。

ひいおばあちゃんは、一九二九年に船の上で産まれました。その船の名前は「むつ」。ひいおばあちゃんは、「むつ」という船の上で生まれたので「むつ子」という名前になりました。同時に、お兄さん二人も生まれていました。しかし、お兄さんたちは、生まれてすぐに亡くなったそうです。その中で一人、ひいおばあちゃんはすくすく成長していきました。ひいおばあちゃんが十歳を過ぎると第二次世界大戦が激しくなっていきました。ある日、ひいおばあちゃんのところ上空襲

があり、必死で逃げ続け、日本から中国へと国をまたいで無事に逃げる事ができたのだといいます。

この話を聞いた私は、「ひいおばあちゃんはお兄さんたちと、おじいちゃん、おばあちゃんになるまで共に人生を歩むことができなかった。そして、戦争で生きるか死ぬかという中で逃げるなんてことを、自分の子どもや孫たちにしてほしくない、後世はずっと平和で、ご飯もたらふく食べられる世の中になって孫やひ孫たちを可愛がってあげたいから、私に優しくしてくれるのかな。」と考えました。

ひいおばあちゃんは私が家に行くたびに、戦争のおそろしさを教えてくれました。「ひもじい思いを孫たちにさせたくない。」という気持ちや戦争の歴史を忘れてほしくないという思いを持っているひいおばあちゃんは、本当にすごいいし、誇りを持っているひいおばあちゃんだと私は思いました。

私は、ご飯をつくってくれたり、ぬいぐるみをプレゼント

トしたりしてくれるひいおばあちゃんの優しさに感謝しています。もうしばらくコロナの影響や用事で会えていないけど、また会えたら、次は私がたくさん恩返しをして、ありがとうのぬくもりを伝えたいです。いつもありがとう、ひいおばあちゃん。

